高知県自然観察指導員連絡会会報

# ネイチャー高知

No ２０ 2002 年 ２月 １日発行

## この冬の須崎湾周辺のカモ

【西村 公志】

今年も １月１４日に恒例の全国一斉ガンカモ調査が行われました。成人の日が１月１５日であった頃は、必ず毎年 １月１５日に行われていましたが、祝日法の改正後は１４日になったり、１３日になったりしています。このガンカモ調査は、私たちが年に一回「カウンター」を使う日でもあります（正確に言えば、サシバの渡りのカウントに使う時もありますが…)。年末の紅白歌合戦の最後に野鳥の会のメンバーが出て集計をする姿は、あまりにも有名になりました。最近は某大学の野鳥研究会が行っていて、日本野鳥の会本部が関わることはなくなりましたが、少し前までは、「野鳥の会…といえば、紅白…」というイメージが定着してしまって、たびたび「いつも数を数えたりしてるんですか…？」という質問を受け、そのたびに「私たちがカウンターを使うのは、年に一回だけです…」と何回も応えました。

まっ、そんなこんなで年に１回カウンターを使う日がやってきました。私は須崎湾周辺の３ヶ所を担当することになっていましたので、午前８時前には押岡川と桜川の河口に到着しました。ここは例年なら、数十羽のマガモやヒドリガモが見られますが、当日はマガモ２羽だけでした。

そこから須崎湾の東岸を少し南に下り､住友大阪セメントの岸壁を通り過ぎたあたりが、２ヶ所目の観察ポイントです。このあたりは運がよければ、高知では珍しいクロガモなどの海ガモの仲間が見られるところです。風もなく、穏やかな湾内をひととおり見回すと、カルガモとマガモが結構見られます。養殖の小割の上に上がっているものや湾口近くの岸辺にいるものもいます。

先ほど通った道を取って返して、次は桐間の池をのぞきます。ここはこの４月に暫定開通する須崎バイパスの工事が行われている影響か、普段より少なめです。それでも湾内ではあまり見られないコガモが多く見られます。カモの仲間ではありませんが、クイナの仲間のオオバンやバン、ここで繁殖したと思われるバンの幼鳥なども見られました。

次のポイントは、御手洗川（みたらいがわ）河口右岸側です。ここも毎年マガモとカルガモ、ヒドリガモが羽を休めています。係留されているクレーン船の船上にも結構上がっているのが見られます。カウントの最中にフィールドスコープの視野の中を、ミサゴが横切っていきます。足には、ゲットしたボラをしっかり掴んでいます。これから食事場に帰って、少し遅い朝食タイムをゆっくりと取ることでしょう。ここで、須崎湾内のカウント

は終了ですから、ひとまず小計をとります。
　受け持ちの調査地点の２ヶ所目の糺池に向かいます。ここでもちょうど須崎バイパスの工事が行われていて工事中、カモの姿はほとんど見られません。工事が終わればまた戻ってくることと思います。

　さて、受け持ちの調査地点の３ヶ所目は、新荘川河口です。須崎市周辺では、ここにカモの仲間が集中しています。晴天なら南岸から観察するのですが、曇天だったため北岸から河口に向かってカウントします。ここでも、この数年ユリカモメやウミネコなどのカモメの仲間が急増しています。ヒドリガモの仲間の珍鳥アメリカヒドリが毎年渡来することでも有名ですが、ほとんどがヒドリガモとアメリカヒドリの交雑個体のようです。河口部の中洲にアイサの仲間がいることもあるので、河口部は要注意ポイントとなっています。

　曇天のため太陽の光に邪魔されることなく、カウントを終了し、浦ノ内湾の調査担当に携帯を入れ、浦ノ内湾に助っ人に行くことにしました。高知市内への帰路、湾の奥からカウントしながら湾口に向かうことにしたのです。最近、減ったと言われるカンムリカイツブリの様子を見ることも、ひとつの目的でした。

　うわさどおり、湾の最奥部にたくさんいたカンムリカイツブリの数は減っていました。最近湾内で行われているウェイクホードと呼ばれるマリンスポーツにより、モーターボートが走り回ることが少なからず影響しているようです。ただ、うれしい発見もありました。少し湾口に近いグリーンピア土佐横浪の光松地区ちかくで、大きな群れのカンムリカイツブリを見つけたのです。なかにはハジロカイツブリも混じっていました。走り回るモーターボートを避けて、羽根を休める場所を移動させていたようです。

　以下にカウントしたカモの仲間を列記します。須崎湾周辺だけを見ると、例年より２割程度少なめ…といった感じでした。全県の集計結果が待たれるところです。

１．　須崎湾　　カルガモ　３２、マガモ　２３３、ヒドリガモ　６１
２．　桐間池　　コガモ　４１
３．　糺池　　ヒドリガモ　４
４．　新荘川河口　ヒドリガモ　３６０、オカヨシガモ　４、カルガモ　６
５．　浦ノ内湾奥　コガモ　５、ヒドリガモ　２７、ホシハジロ　８、
　　スズガモ　５、マガモ　９７、カルガモ　５３
　　番外カンムリカイツブリ　５１、ハジロカイツブリ　２
　　以上、９３６羽＋５３羽

# Plant　Invader がいっぱい

坂本　彰

前回の「ネイチャー高知」にも書きましたが、昨年６月から、高知県植物誌の作成にボランティアの地域調査員として関わっています。まず、身近な身の回りの植物から調べようということで、散歩コースを中心に植物を採集し、標本を作製していますが、思っていた以上に帰化植物が多いのに驚いています。

昨年、３次メッシュコードで５０３３－２３－４９と５０３３－２４－４０の二つの地域、ごく大雑把にいって、自宅付近の縦１ｋｍ横２ｋｍの範囲で採集した草本（木本とシダは勉強不足でほとんど手を出してない）を中心とした標本を２０７種作りました。そのうち３分の１を越える７１種が、帰化植物でした。

これらがどのような場所で採集されたかを見てみると、表－１のとおりでした。

表－１　　生育環境別採集種数

| 採集場所 | 採集種数 |
|---|---|
| 空き地 | ２７ |
| 道路植樹帯 | １２ |
| 河川敷 | 8 |
| 道路（道路の歩道や路肩など） | 6 |
| 公園 | 5 |
| 庭 | 4 |
| 水田 | 3 |
| 休耕田 | 2 |
| 道路沿いの水路 | 2 |
| その他 | 5 |

今回の調査は、同じ調査区域で採集するのは、原則として１種類ですので、必ずしも採集した環境にしか生育してないということはありませんが、全体としてはそれぞれの種の代表的な生育環境で採集していると思います。

最も多くの種が採集できたのは予想したとおり空き地で、全体の３６％、２７種になりましたが、意外に多かったのが道路に関連する場所で、植樹帯１２種、歩道や路肩６種、道路沿いの水路（側溝）２種と道路敷地内で２０種を採集していました。その中でも、植樹帯に多くの帰化植物が生育しているのが気になります。ひょっとしたら、この植樹帯の新設や管理が、帰化植物が生育範囲を拡大していく原因になっているのではないかという疑念が湧いてきました。道路の外から植樹帯に帰化植物が入り込んでくることも考えられますが、それよりも、新しい道路を基地にして周辺に侵出していく事の方が可能性が高いと考えます。

土佐道路の場合、道路の車道と歩道の間に植樹帯が連続して設けられています。そこには高木としてモミジバフウ（アメリカフウ）が、また低木としてツツジ類（種名は不明）が植えられています。これらの苗木や栽培用の土は、いずれも道路の建設に伴って他の地

域から持ち込まれたものです。苗木についた土に或いは客土の中に、帰化植物の種子が混入しており、道路が延長されるごとに新たな生育地を確保し、されに道路周辺の空き地などに生育範囲を拡大していくという図式です。道路の法面の種子の吹き付けによる外来種の侵入については、これまでも議論されましたが、植樹帯についても検討が必要と思われます。

確認できた帰化植物７１種については、文末に一覧表を載せましたがこのうち※のついた種は、山中二男先生が昭和５３年に発行された「高知県の植生と植物相」の高等植物目録に掲載されていない種です。この中にはアメリカタカサブロウやヒロハホウキギクのように、最近になってタカサブロウあるいはホウキギクと違う種であるということが明らかになったものもありますが、大半は山中先生が調査をされてから後に、高知に侵入してきたと思われる植物です。

これらの侵入者は、在来種への影響など本来の自然を保全する上からは困った存在ですが、植物を探す興味の上からは、面白い存在です。あなたのすぐ側にも、侵入者がこっりと忍び込んでいて、勢力を広げているかもしれません。皆さんも、侵入者探しをしてみませんか。

朝倉（メッシュ番号５０３３－２３－４０　５０３３－２４－４０）
で採集された帰化植物リスト

アオゲイトウ、アメリカアサガオ、アメリカアゼナ、※アメリカタカサブロウ、アメリカネナシカズラ、アメリカフウロ、アレチギシギシ、※イチビ、ウマゴヤシ、オオアレチノギク、オオイヌノフグリ、オオクサキビ、オオニシキソウ、※オッタチカタバミ、オニウシノケグサ、オランダミミナグサ、キシュウスズメノヒエ、ケアリタソウ、ケナシヒメムカシヨモギ、コシロノセンダングサ、コセンダングサ、コマツヨイグサ、コメツブツメクサ、シナダレスズメガヤ、シマスズメノヒエ、ジュズダマ、シュロガヤツリ、シロザ、※スギモリゲイトウ、セイタカアワダチソウ、セイバンモロコシ、※セトガヤモドキ、※ダキバアレチハナガサ、タチスズメノヒエ、チチコグサモドキ、チョウジタデ、※ツタバウンラン、※ツボミオオバコ、ツルノゲイトウ、トキワツユクサ、ナガバギシギシギシ、※ナガミヒナゲシ、ナンキンハゼ、ニワゼキショウ、※ノゲナシドクムギ、ハキダメギク、ハゼラン、※ヒナキキョウソウ、ヒメジョオン、ヒメツルソバ、ヒメヒオウギスイセン、ヒメマツバボタン、ヒメムカシヨモギ、ヒルザキツキミソウ、※ヒロハホウキギク、ブタクサ、ホウキギク、※ホザキマンテマ、ホソアオゲイトウ、ホソバヒメミソハギ、マカラスムギ、マツバゼリ、マメアサガオ、マメグンバイナズナ、マルバアサガオ、マルバアメリカアサガオ、メキシコマンネングサ、メマツヨイグサ、メリケンカルガヤ、ヤナギハナガサ、ワルナスビ

# スミレと早春の花観察会のお知らせ

春恒例のスミレと早春の花の観察会を３月３０日午後１時３０分から開催します。

場所は、鏡村の鏡ダム周辺の雑木林です。鏡ダム周辺の観察場所は、スミレ、ヒメスミレ、オカスミレ、シハイスミレなどのスミレの仲間の他、カキドウシやアマナ、ジロボウエンゴサクなど早春の草花を観察することができます。

講師は、細川公子さん。小雨決行ですので、雨が降りそうなときは雨具もお忘れなく。

集合場所については、高知新聞「伝言板」でお知らせします。

参加希望者は、事務局か細川公子さん（TEL&FAX088-845-5540）までお知らせください。

なお、この日は午前中牧野植物園主催の「スミレ教室」があります。講師はもちろん、細川さんです。

## 編集後記

無事にネイチャー高知 No20 を作成することができました。原稿を書いていただいた、西村さん、三本さん、山本さんには感謝感謝です。

時間のたつのは早いもので、事務局をお預かりして４年が経過しました。マンネリ化を気にしつつ、かといって、新しい発想もできず・・・といったところです。

機関誌やニュースレター或いは会の活動に対するご意見をいただければ幸いです。

「ネイチャー高知」高知県自然観察指導員連絡会会報
No２０

事務局　　高知市朝倉南町3-51-1　坂本彰方

TEL&FAX　088-850-0102
E-MAIL　akira@baobab.or.jp